

令和4年度 第2回やまなしプラスチックスマート連絡協議会

【日時】

令和5年1月25日（水曜日） 13時30分～15時00分

【場所】

山梨県庁防災新館 409会議室（甲府市丸の内1-6-1）

【内容】

18名の委員（オンライン出席を含む）が参加し、行政や各団体におけるプラスチック対策の情報共有及び、プラスチック資源循環促進法施行に伴う県内の動向についてなど、以下の点について意見を交わしました。

1. やまなしプラスチックスマート連絡協議会の規約の改正

- ・協議会構成団体の解散に伴う規約の改正
令和5年1月25日施行

2. 県の事業報告

- ・海洋プラスチックごみ発生抑制対策事業費補助金
- ・河川マイクロプラスチック調査
- ・流域他県と連携した環境美化啓発イベントツアー
- ・トランク・ミュージアムの無償貸出

3. プラスチック資源循環促進法施行に伴う県内の動向について

- ワンウェイプラスチックの使用の合理化
 - ・プラスチックごみ問題普及啓発ポスターの作成
- プラスチック廃棄物の分別収集、再資源化
 - ・容器法に基づく指定保管施設の見学会について
 - ・市町村を対象としたプラスチック製品の一括回収の説明会
 - ・プラスチック製品の一括回収を開始した韮崎市の紹介

4. 協議会団体等の事業・成果報告

- 海と日本プロジェクト in やまなし実行委員会
「資源回収ボックスの実証実験の結果について」
 - ・ペットボトル回収用のリサイクルボックスを3種類（ボックスの中が見えない・ボックスの中が見える・パネル式）のピョン吉ボックスに変えて、異物混入率の変化やボックスによる内容物の違いを調べた。
 - ・実験結果から、ボックスの中が見える方が、異物の混入を抑える効果があることがわかった。
 - ・ボックスの種類に関係なく、たばこの吸い殻入りボトルが見られた。
 - ・自販機横の回収箱がリサイクルボックスであることをさらに周知していきたい。

○山梨大学大学院総合研究部 金子栄廣教授

「生分解性プラスチックは環境に優しいか？」

- ・自然環境中での生分解性プラスチック(PBSA)の分解速度を評価した。
- ・PBSA を浸漬した後の池水の水質への影響を調べた。
- ・池水中に PBSA が混入すると、完全に分解しきるまでに時間がかかるので、環境中での分解期間に配慮する必要がある。
- ・PBSA が水中に混入すると、有機物による水質汚濁を招くとともに、多くの微細なプラスチックを水中に放出する可能性がある。

5. その他

○山梨県一般廃棄物協会

「再生 100%リサイクルポリ袋について」

- ・一般廃棄物協会の組合員が、不要となった梱包資材であるストレッチフィルムを原料とした再生 100%リサイクルポリ袋の加工・販売を始めた。
- ・この製品はやまなしトリアル発注商品等認定制度と JIS 規格の認定を受けた。
- ・100%リサイクル素材でできたポリ袋は今回の製品が初めてである。

○NPO 法人スペースふう

「リユースお弁当の取組について」

- ・コロナ禍でイベントが中止となり、これまでのリユース食器の事業が継続できなくなったときに私達にできることは何かを考え、お弁当容器をリユースしようと考えついた。
- ・お弁当はこれまでのリユース食器と違い、家で食べるので、お弁当容器を返さなければいけないという手間がある。その手間を逆手にとり、コロナ禍によって孤立している人達にお弁当を届け、空になったお弁当容器を回収するなかで、その人達と会話することで、人と人とのつながりをもつことができるようにしている。
- ・この活動は富士川町で主に産後ママを対象に実施している。

○山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト

- ・早稲田大学の谷本先生に基調講演をしていただく。
- ・2月18日(土)に甲府市総合市民会館でリアル開催のみで実施する。基調講演のあと、ディスカッションとワークショップで、私達は何をしていけばよいのかを模索していく。
- ・このサミットの前段階として、若い人を中心に交流会としてワークショップを行い、サミットにつなげていく。

【構成団体からのご意見】

＜県の事業について＞

- 海洋プラスチックごみ発生抑制対策事業費補助金について、補助金がより活用できるように、補助対象事業の範囲を広げるよう国に要望してほしい。

＜プラスチック資源循環促進法施行に伴う県内の動向について＞

- プラスチック資源循環促進法ができたことをよい機会として、プラスチックをごみではなくリサイクルできるように、県民に働きかけていただきたい。

＜資源回収ボックスの実証実験の結果について＞

- こういった実験をしている場合は、協議会の場でどんどん発表してもらえると嬉しい。
- ペットボトルの飲み残しをなくすために、メーカーによる啓もうが必要ではないか。

＜生分解性プラスチックは環境に優しいか？＞

- 生分解性プラスチックは本当に環境に優しいのかわからなかったので、実験結果を聞くことができてすごく良かった。
- 外部講師として環境問題を学校の授業で取り扱ったところ、中学生から生分解性プラスチックはどの程度の時間で完全に分解されるのかという質問が多かった。今後先生の研究結果を参考にさせていただきたい。
- 生分解性プラスチックは生ごみの袋と一緒にコンポストに出すことができれば、一緒に土に分解されるため環境に優しい。そういった使い方では生分解性プラスチックを使うのはいいことだと思う。